

日本学術振興会先端研究拠点形成事業「光生物学を軸とした神経可塑性研究拠点の形成」の一環として、2017年11月29日から12月1日に同志社大学リトリートセンターで、シンポジウムを開催し、合計43名の参加者を得た。大学院生、学部生を含め、事業外の若手の参加が8名あった。本事業参加者以外に、シナプス構造の電子顕微鏡形態学の第一人者である福井大学の深澤教授にも参加いただき、シナプス、軸索といったシグナル素子の機能、分子構造に関して最新の知見を紹介し、また議論した。合計、12題の口演、17題のポスター演題があったが、なるべく時間的に余裕を持たせ、つっこんだ議論をおこなった。また、互いの交流時間を設けることで、特に若手同士の研究交流、共同研究を促進させる良い機会となった。発表内容では、特に海外側で有望な研究発表がいくつかあり、Hallermann (小脳苔状線維シナプス前終末からの直接記録による機能解析)、Cooper (シナプス前終末の quick freeze 法による微細構造解析) など、独自性の高い研究が紹介され、特に若手研究者に刺激を与えたと思われる。さらに、来年度以降も同様の形式で日本、海外で年1回程度シンポジウムをおこなうことを確認した。

